

結 成 宣 言

私たちは本日、J R 東日本輸送サービス労働組合東京地方本部を結成し、今後の運動方針を満場一致で確認した。

この2年間のたたかいは、決して容易な道のりではなかった。18春闘以降、会社からの熾烈な脱退策動や不当労働行為に対して「絶対に許さない」「何とか止めて欲しい」と言った悲痛な叫びに対し、職場から声をあげて屈すること無くあらゆる妨害を跳ね除けてたたかい続けてきた。そして、自らの自己保身と責任逃れを正当化し、労働組合としての役割と機能を完全に放棄したJ R 東労組に見切りを付け、この場に結集する仲間が中心となり真つ当な労働組合をめざし「組合員を守るために」自信を持って決起した。私たちは、バス棚倉の仲間や東京において個人訴訟を起こした4名の仲間と共に“あったことは、無かったことにすることなく”「連帯する会」をはじめ、共にたたかう仲間との連帯の輪を広げていく。

この間の会社施策は「提案・交渉・妥結」というスピード感のみが重視され、現場の声は無視された中身になっている。4月から行われる「新たなジョブローテーション」施策では、会社の「任用の基準」により社員の異動が容易にできるようになり、いつ異動になるかという不安の中で業務を行っている。営業職場や工務職場、検修職場では業務委託拡大や技術継承の問題が喫緊の課題であり、運転職場では乗務員勤務制度の変更により乗務効率のみが追求され、働きがいやゆとりが十分担保されていない。また、TASCやATO導入により運転制御の自動化が進み、首都圏においてもワンマン運転施策が待ち受けている。非現業部門やかんり部門では、精神を病み、命を落とす悲劇も起きている。こうした職場実態を変え、安全を価値基軸に“命を守る”ために、会社の経営姿勢を正し健全な企業をめざそう。

20春闘が始まった。経団連は「終身雇用制や年功序列型賃金は時代にそぐわない」とけん制した。春闘リード役のトヨタ自動車労働組合は「人事評価に応じてベア額に差がつく異例の要求」を行った。正々堂々と要求を掲げてたたかうという労働組合の使命と誇りを捨て去り、春闘崩壊の様相を呈している。昨年、消費税が増税され消費が冷え込んでいる中、生活向上分や物価上昇分といったベアのあり方、労働組合の存在価値が問われる重要なたたかいとなる。中央本部が掲げた「所定昇給額にこだわらず、全組合員一律ベア6000円満額獲得」に向け、20春闘勝利に向けてたたかおう。

東京では7月にはオリンピック、8月にはパラリンピックが控えている。駅での対応や列車の運行、自然災害や不測の事態に遭遇した場合など、あらゆる課題が山積している。その一方で「人口減少や少子高齢化」「異常気象による想像を超える災害」「放射能問題」など、今後の私たちの生活に関する課題も控えている。今こそ、全組合員の英知を結集し、あらゆる妨害に屈することなく職場からのたたかいを基礎に、労働組合主義に徹し「安全・健康・ゆとり」ある職場、そして「明るく・楽しく・働きやすい」職場風土を全組合員で築き上げていこう。そして、全ての仲間のために20春闘勝利！不当労働行為根絶！職場活動を基軸に、安全な鉄道を走らせ、安心して働けるJ R 東日本を創造し、次世代へ豊かな地球環境・暮らしを継承するために、J R 東日本輸送サービス労働組合東京地方本部への結集を呼びかけていこう。

以上、宣言する。

2020年 2月14日
J R 東日本輸送サービス労働組合
東 京 地 方 本 部